

国語 第3学年 じょうほうのとびら：全体と中心

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、全体と中心の関係という目標を保ち、説明の構成図で学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時数は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「じょうほうのとびら：全体と中心」 教材名「じょうほうのとびら：全体と中心」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、中心や理由、事例の関係を確かめ、情報の関係を整理する。思考・判断・表現では、説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てる。交流や試行の前後を比べ、説明の構成図を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①中心や理由、事例の関係を確かめ、情報の関係を整理している。〔知識及び技能〕(2)ア)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てるという学習に取り組んでいる。(B(1)イ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、全体と中心の関係を中心に学ぶ。説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てる活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(2)アとB(1)イに関係する学習である。成果は、説明の構成図に示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、集めた情報を全て同じ重さで入れることである。一番伝えたいことを先に書き、各情報との関係を確かめる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時（本時）：○説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てる。○中心から外れる情報はどれかを考え、最初の答えとその理由を残す。 評価：知①・思①（発言・学習記録）

第2次 第2時：○友達の説明と比べ、説明の構成図を見直す。○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。 評価：思①・態①（見直しの記録）

6 本時の指導（1／2）

(1) 本時の目標

説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てることができる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：１ 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。

○「中心から外れる情報はどれか」

【めあて】全体と中心の関係について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・面白い情報でも中心とつながらないものがあった。

・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例を見える所へ置く。集めた情報を全て同じ重さで入れる姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：２ 説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てる。

３ 書いたものを読み返し、「中心から外れる情報はどれか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認する。

４ 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。

予想される児童の反応：・面白い情報でも中心とつながらないものがあった。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：一番伝えたいことを先に書き、各情報との関係を確認する。知識・技能では、中心や理由、事例の関係を確かめ、情報の関係を整理している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てるという学習に取り組んでいる。

（B(1)イ）（初稿・見直した稿・修正理由）

【まとめ】

学習活動：５ 説明の構成図を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】書いたものを読み手の立場で確かめ、目的に合う言葉や構成へ直すと、伝えたい内容が明確になる。

６ 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。中心から外れる情報はどれかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①（説明の構成図と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

（３）本時の評価

おおむね満足できる状況は、説明に入れる事柄を中心との関係で選び、段落の順を組み立てるという学習に取り組んでいる姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。集めた情報を全て同じ重さで入れる場合は、一番伝えたいことを先に書き、各情報との関係を確認する。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

（４）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には全体と中心の関係を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に説明の構成図で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

